

## ペットと高齢者のつながりを生む老人ホーム

1200093 土江 菜生

指導教員 吉田 晋・重山 陽一郎

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

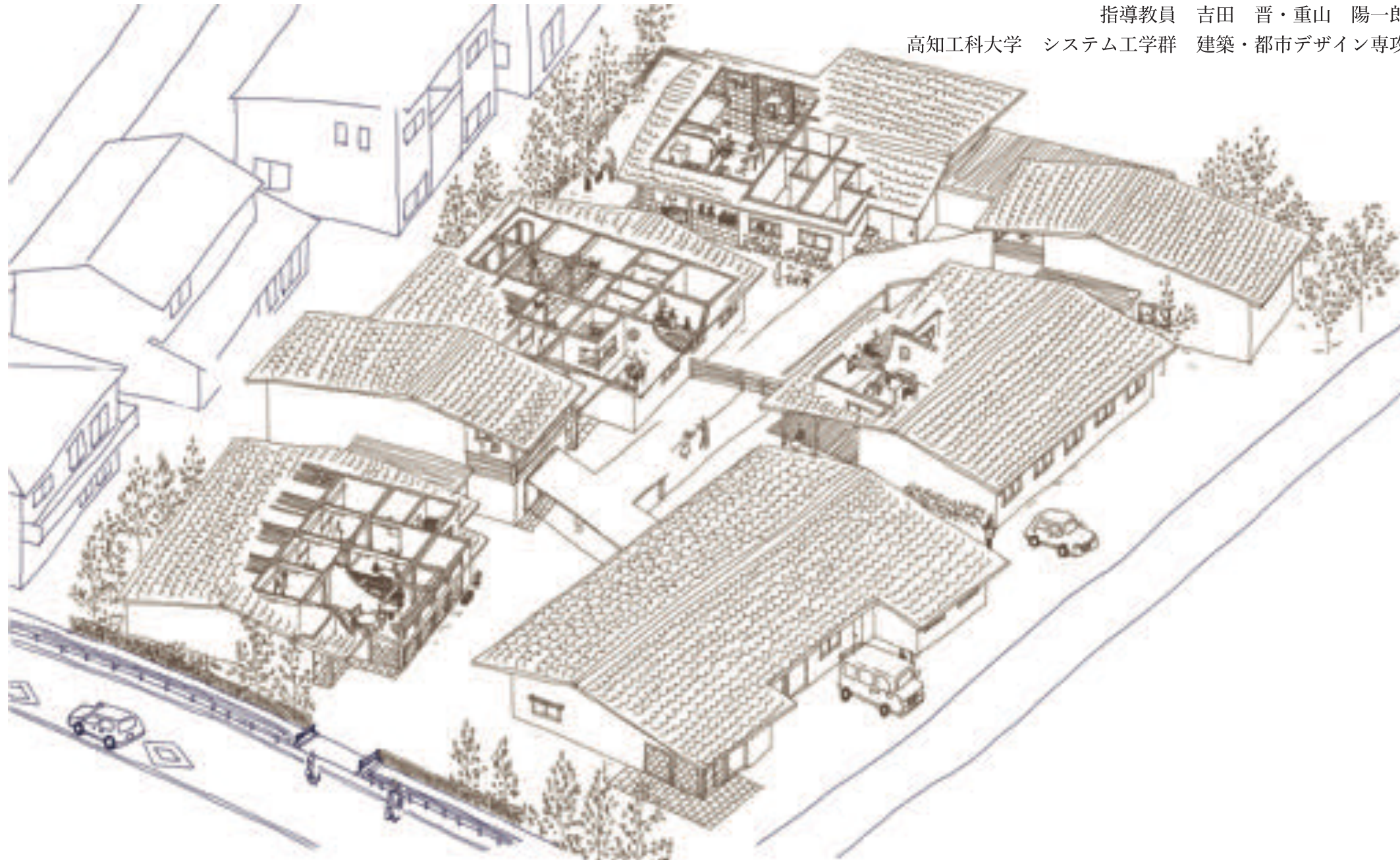


図 1. 全体パース

### 1. 背景

高齢者にとってペットの存在は寂しい時、話し相手になったり、ペットがいることで規則正しい生活になったり、運動に繋がったりと精神面や生活面において大きな支えであるように思う。しかし、ペットと高齢者の問題点として、ペットと高齢者が安心して暮らせる居場所が少ないことが挙げられると考える。そこで、ペットと高齢者が安心して暮らせ、さらに愛着を深めることのできる老人ホームを提案する。

### 2. 目的

ペットと高齢者のつながりを生む老人ホームの設計により、ペットと高齢者がさらに愛着を深めるための場をつくること目的とする。

### 3. 対象敷地

対象敷地は島根県松江市東持田町とする。住宅地と田畑に囲まれており、周辺には幼稚園・小学校・公民館があり、対象敷地の西側道路には地域住民が行き交う様子が見られる。家族や地域の人々の訪問、高齢者の地域の行事への参加、日常的な外出を想定しこの敷地を選択する。(図2.)



図 2. 対象敷地周辺図

(国土地理院の電子地形図に対象敷地を追記して掲載)

### 4. 設計方針

家具や空間など高齢者が日常的に利用したり生活したりする要素にペットとふれあう仕掛けを組みわせることにより、つながりを生みペットとの愛着を深めるための場をつくる。

また、導線や配置によりペットを通して施設内の高齢者同士のつながりを生む。

### 5. 設計

#### 5-1. 配置計画

ペットや高齢者にとって開放的に暮らせるように、5つの分棟とし視界が抜けるようなヌケをつくり、それぞれの棟がヌケに面するように、配置した。

また西側道路に接するように中庭を配置することで、道路を歩く地域の人々から中庭を通して高齢者とペットの暮らしがうかがえるようにし、地域の人々にとっても開かれた老人ホームとなるよう設計した。

(図3.)

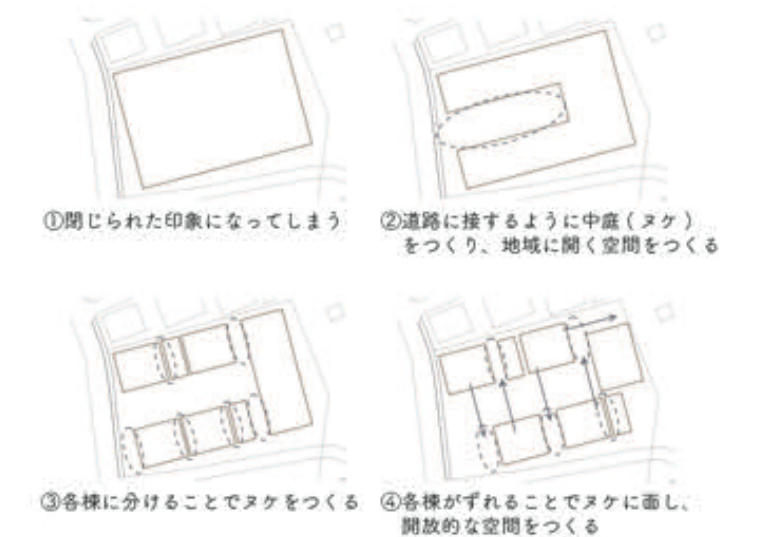


図 3. 配置ダイアグラム

#### 5-2. 廊下

手すりや扉、建物の骨組みを利用し、実際に触れ合いながら一緒に歩くことができたり、猫が高齢者の様子を眺めながらぶらぶらすることができたり、高齢者が猫の様子を見上げたりさまざまな距離感でのペットと高齢者の触れ合いを楽しむことの出来るキャットウォークを廊下に組み合わせる。

#### 5-3. リビング

廊下の上に設置したキャットウォークからつながる棚を利用したキャットステップをみんなで集うリビングには組み合わせることで、猫と高齢者がみんなでワイワイすることのできるリビングとする。



図4. 配置図兼1階平面図

#### 5-4. 窓

高齢者が外の景色を眺めたりするような窓に台を設ける。それにより、猫がのぼって日向ぼっこをしたり、外の様子を伺ったりすることができ、ペットと高齢者が一緒に日向ぼっこをしたり、外の様子を眺めたりすることによりつながりを生むことのできる窓とする。

#### 5-4. 土間リビング

中庭に面するように土間のリビングを配置することで、犬は高齢者に見守られながらのびのびと遊び、また高齢者は他の施設内の高齢者と犬が走り回っている様子を楽しみながら会話するなど犬をきっかけにコミュニケーションをとることができるリビングとする。

#### 5-5. 緑側・デッキ

高齢者が休むことのできる緑側やデッキを中庭に配置することで、中庭を散策した犬と高齢者が触れ合いながら一緒に一休みすることのできる緑側・デッキとする。

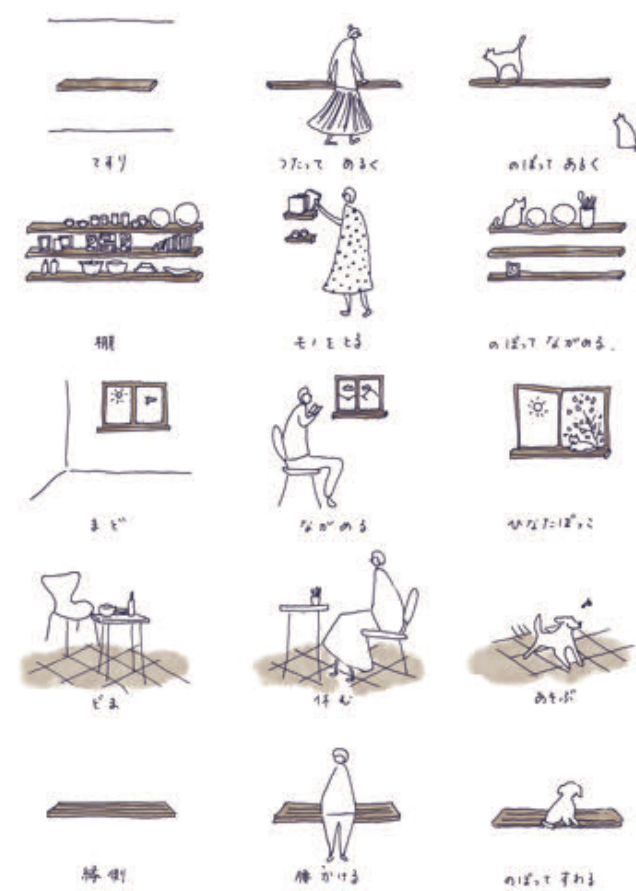


図5. 設計ダイアグラム



図6. 廊下パース

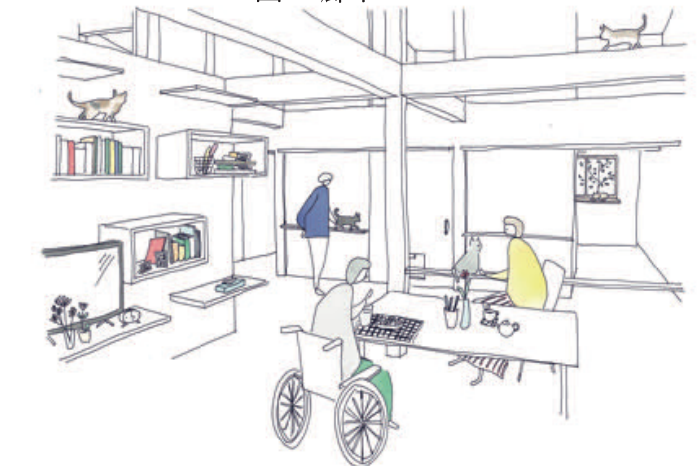


図7. リビングパース



図8. 土間リビングパース

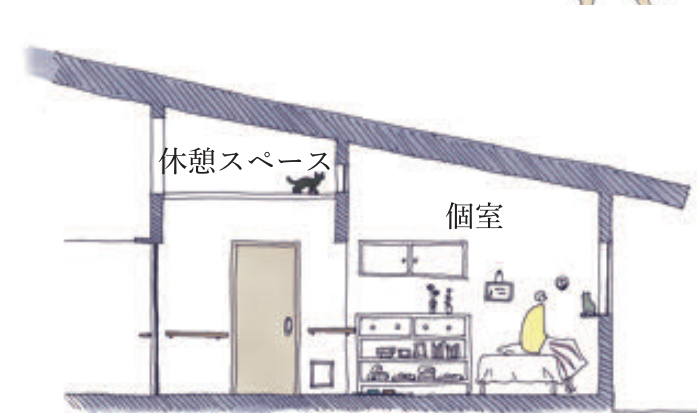


図9. 個室断面パース

天井部分を猫の休憩スペースとすることで距離感を選べるような個室とした。

#### 5-6. 導線計画

天井部分では、ネコが飼い主の様子を眺めながら移動できるように、格子を張ったネコの休憩スペースや、扉、建物の骨組みを利用したキャットウォークからなる空間とした。

また、天井部分と床をつなぐ箇所を棚と柱の2箇所を設定することでネコの導線がリビングに集まるように設計した。それにより、リビングには導線が集まり賑わいをもたらすことができる。(図9.)

- ①休憩スペース
- ②キャットウォーク
- ③柱・棚

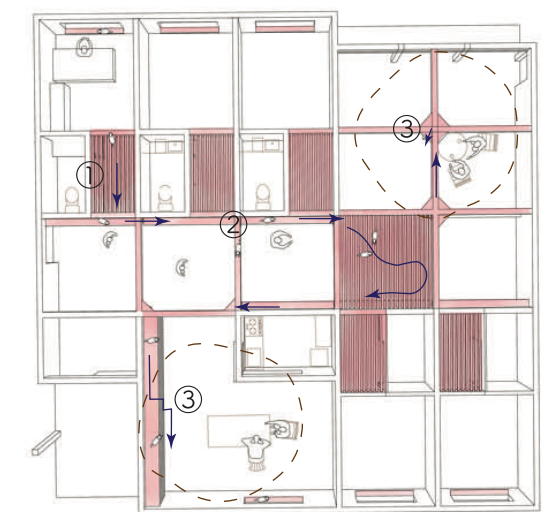


図10. 天井部分図

#### まとめ

家具や空間などの要素にペットと高齢者がふれあう仕掛けを組みわせることで、日常的につながりを生みペットとの愛着をさらに深めるための場をつくることができたと考える。

#### 参考文献

- ・今泉忠明ほか、『建築知識特別編集 猫のための家づくり』、エクスナレッジ、2017
- ・伊沢陽一、『高齢者介護・看護施設の計画と設計』、彰国社、2011
- ・建築設計資料ケアハウス・有料老人ホーム編：建築思潮研究所
- ・ひとと動物の絆の心理学 著：中島由香